

明けましておめでとうございます。
どうぞごきげん

す。
昨年は、国内だけでなく海外でも相次ぐ風水害などの災害の多い年でしたが、今年こそ、より多くの幸せにあふれた年であつてほしいものと願っております。

回復の兆しが見え始めた経済情勢のなか、医療の面においては、総医療費を抑制する政策が取られております。

しかし、どのような社会情勢になろうとも、中東遠地域の中核病院として、「愛三六五日」の精神を持って、この地域の皆様に満足と安心をもつて受け入れられる、より質の高い医療を提供することに努めていきたいものと存じます。

昨年の業務を振り返って

一昨年四月、診療報酬は薬価で0.89%、診療材料で0.16%併せて、1.05%の引き下げ改訂が行われ、病院を取り巻く医療経済環境はますます厳しくなっております。職員一同、収益の確保と経費の削減に努めはしたものの、91,149千円の純損失となってしまいました。平



成18年
度の診療報酬

改定でも、引き下げが見込まれており、病院経営を取り巻く環境は、極めて厳しさを増しております。

昨年には、リハビリの作業療法の充実や各種設備の更新等を行い、診療の質の向上に努めました。7月末には、院内に医療用PHSを導入し、さらに迅速な患者様への対応が可能となるなど、患者様へのサービスの向上に努めました。

また、10月には当院消化器科医師を中心に、新しく「緑茶医療研究センター」を設置し、掛川茶を使用したC型慢性肝炎への緑茶の効能の研究にますます期待が高まっております。

また、これまでの当院の病診連携業務の推進により、紹介患者加算と

院長・五島一征

より信頼される 病院をめざして

急性期入院加算の二つの加算が認められることとなりました。今後も地域の医院と連携し、患者様により信頼され安心できる病院を目指しております。

一市二町合併と病院

昨年年四月一日には、掛川市・大東町・大須賀町の一市二町が合併し、新しい掛川市が誕生しました。それに伴い皆様から寄せられる当院への中

核病院としての期待も、今後もさらに高まっていくものと思われま

当院は今後も、新市そして周辺市町村の二次救急病院、そして急性期の医療機関として高度で安心できる医療を皆様に提供していくとともに、地域内の開業医院との連携を大切に皆様の信頼を深めていきたいと考えております。

しかしながら、多くの診療科で医師不足であり、皆様にはご迷惑をお掛けしております。なんとしても医師を確保するように努力し、「愛三六五日」の心で、優れた医療を提供していきます。

本年もよろしくご指導のほどお願いいたします。

